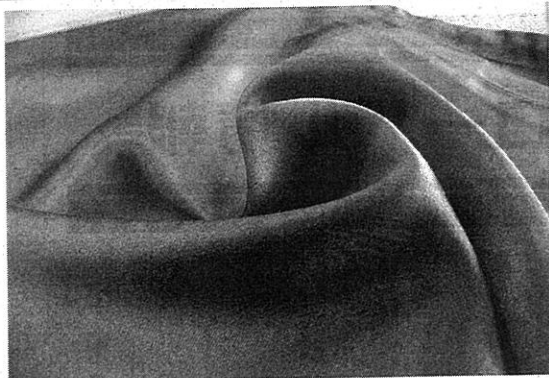


堀江染工

レーヨン生地にユーズド感

色落ち感出す加工を拡充

染色加工の堀江染工（岡山県倉敷市）は、これまで手掛けることがなかった合繊やレーヨンをユーズド感を付与するどへ広げながら開発を進めている。



レーヨン100%生地に染料顔料染めを施したもの

同社も参加する岡山県繊維染色工業協同組合の参加企業とも連携した加工も訴求する。同社が得意としてきた綿の中肉素材以外で色落ち感を表現する加工の開発に力を入れてきた。同社が得意としてきた綿の中肉素材以外で色落ち感を表現する加工の開発に力を入れてきた。同社が得意としてきた綿の中肉素材以外で色落ち感を表現する加工の開発に力を入れてきた。

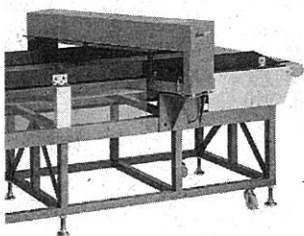
サンコウ電子研究所

ノイズに強い検針機拡販

国内外で需要開拓に注力

サンコウ電子研究所（本社川崎市）は、コン

折れ針の検知を主要な用途とする「APA-6900W」の拡販に力



「コンベア式検針機「APA-6900W」

用した。シンクルヘッドが針の方向を変えて2回検針すると同等の効果をもたらす。

2024年7月

期のコンベア式検針機群の売り上げは前期比167%と大幅に伸びた。

フーヴァル 12月期は増収を確保 今期は足元固める年に

洗い加工のフーヴァル（岡山県倉敷市）は2024年12月期、売上高が12億2千万円（前期は10億2千万円）と増収を確保した。今期に入っても「前期のスタート時も状況は良い」（石橋秀次社長）など、受注が好調に推移する。

このほか、中古感を付与できる硫化染料を使ったリスキ加工では、オーガニックコットン使用の生地への加工を拡充。撥水（はっすい）機能に加え、経年変化によってチョークマークがで

橋本裕司織布 播州織のヒジャブ開発

ムスリム女性の需要狙う

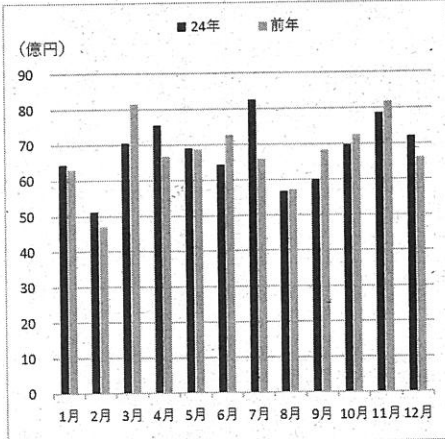
ビジネスガイド社主催「ヒジャブ」を播州織で製品化した。播州で作られる先染め織物といえは

が、民族衣装として使うケースは珍しい。中東、インドネシアといったムスリムの多い国から観光などで来日する女性の需要を狙う。安価なものから高級なものまでさまざまなヒジャブが流通する中、同社の織り方の特徴は、意匠や機能加工

からのさらなる信頼につながる。今期は売上高13億円を目指す。堅調な受注に伴い、「工場も手狭になってきた」。そのため、事務所と手擦り工程部門を今よりも広い場所へ移転させることにも視野に入れる。現在、拠点を開く倉敷市児島地内の物件を探している。石橋社長は「資金の問題もあるが、建屋を建てるとも視野に探している」と話す。

24年の輸入動向

タオル 0.4%の増加



タオル輸入額				
	12月速報値	前年同月比	累計	前年同期比
中国	3,747	109.8%	43,658	98.3%